

Pick
Up!

JAいわて花巻

「若手発信プロジェクト」メンバーが 活動成果を発表しました!

JAいわて花巻は昨年、若手職員が中心となって問題解決に向けた協議を行う「若手発信プロジェクト」を始動しました。さまざまな部署・支店等から選出されたメンバーが、よりよい職場を目指して意見を出し合い、JA運営に対する提言を行うことを目的としています。2期目となる令和6年度は、8名のメンバーが約1年にわたって活動しました。



3月14日、常勤役員や部署長、支店長などが揃った総合企画会議の場で、活動の集大成となるプレゼンテーションを行いました。人材確保や意欲向上に繋がる具体案として「フレックスタイム制」や「身だしなみ規制の緩和」などを挙げ、職員がワークライフバランスを整えて働くことや、モ

チベーションの向上に繋がる取り組みの実現を要望しました。

メンバーとして活動した湯口支店共済課共済渉外係の中村武史職員は「私たちの花巻農協がより良い魅力的な職場となるよう、時にはぶつかりながら意見を出し合った。令和の時代に対応し生き抜く農協であるために、職員が団結しなければならない」と力強く伝えました。



提言を受け、高橋利光組合長は「皆が納得し、同じ方向を向いて組織を運営するためには、1人1人が参画できる仕組みが大切。プロジェクトの提言を各部署で確実にフィードバックし、活発に意見交換が交わされる職場環境を作っていこう」と呼び掛けました。

JAいわて花巻では令和7年度も、第3期の活動を継続していきます

カバーストーリー～表紙の紹介～

今月は キンギョソウ

鮮やかな発色と、真っすぐに伸びる凛々しさ。ふわふわとした可愛らしい花姿。今月の表紙は、たくさん魅力を兼ね備えたキンギョソウです!

有幸さんが栽培しているのは「アスリートシリーズ」のイエローとブライトピンク、「キャンシリーズ」のホワイトとローズピンクの4色です。いずれも丈の伸びが非常に良く、市場での取引価格も安定しているとのこと。

植え付け作業は毎年8月に行い、9月中旬から11月頃、そして3月、計2回の収穫期が訪れます。出荷には最低でも草丈60cmが必要で、10輪ほど花が開いたタイミングが収穫適期です。今年は目立った病害も無く、順調に収穫が進んでいます。太田地



生産者

花巻地域花卉生産部会

おばら 小原 幸さん(花巻市太田)

区は水が湧く地域であり、湿気に弱いキンギョソウを育てるために水揚げ剤を活用し、生育に適した圃場の状態を保っています。

管内では、キンギョソウの生産者、生産量ともに減少傾向にあるのが実状です。それでも高品質栽培へのこだわりを胸に、一人一人が日々の栽培管理に汗を流しています。



3月、JA本店の受付にも有幸さんのキンギョソウを飾らせていただきました。